

## 『明日の方角』

作詩：覚 和歌子

D .. これは役に立つ本だ と君は言う

たった1ドル 買わなきゃ損だ

自分じゃ読めない古雑誌を売りつける君の

こすりつけてくるからだの匂いと

泥のつまった指の爪

E .. 妹が家で死にそうなんだ と君は言う

いちにち分の家族の食いぶちのために

くいさがる君のしつこさは

物心ついたときから

とっくに腹をくくっている証拠

F .. 想像力は持っているだけ 苦しいのか

やぶれる夢は見ないことになっているのか

それとも 生きててうねうねと

ときどきは思っているのか 君も

妹のほほえみに つい笑い返したりするのか

G  
.. そのくせ ときおり見せる

無防備な ぎょうてん顔

乾いた砂を巻き上げる風が

やけて分厚くなった頬に

粉を吹かせて

H  
.. 友だちもみんな似たようなものだから

貧しさをすねることもない

誰かのせいにすることもない

生きのびるためのたった今を

むさぼるように積みながら

君は下っ腹でくそ意地を練り上げる

渡部..それがいつか

君の国のやまない疼きをはねかえす

したたかなばねにかわるといい

希望は 絶望にとてもよく似た姿をして

明日の方角から

もう歩き出しているかもしれないから